# 「水環境マップ 2.0」の展開
## ～ コラボレーションによる流域環境見守り体制の構築 ～

### 深刻化するプラスチック汚染

2023年G7広島サミットでは、2040年までに河川などを通じて陸域のプラスチックごみの海域への流出をゼロにするなど、野心的に宣言した。

### 国土交通省の取り組み

河川へのごみ等の投棄の防止を図るため、普及啓発活動のほか、河川巡視等による不法投棄の抑制、地域と連携した清掃活動の実施等によりごみ等の投棄がしにくい **地域環境の創出** 等に努める。

## 従前からの清掃活動や普及啓発のままで「ごみ等の投棄がしにくい地域環境の創出」は可能か

### 2005年 「最上川2005ゴミマップ」の発行

- ごみ量の「もの差し」
  ⇒散乱ごみの指標評価
- 海のごみ問題とのつながりを明記
- 山形県内の小中高校や公共施設への配布、出前授業での活用　等

### 河川管理者が作成している「河川ゴミマップ」

- 国土交通省の河川（国道）事務所が作成するマップは、2024年6月現在166件／一級河川109水系
- 多くのマップは「粗大ごみ」について、処理云々の表記
- HP上での公開
- 数値、分類は統一されていない
- 啓発ツールとしての活用は ？

### そこで、

最終的な目標が同じと考えられる、
- 「身近な水環境の全国一斉調査」（水環境マップ実行委員会）
- 「河川ゴミマップ」（国土交通省）
- 「身近なごみ見っけ！」（全国川ごみネットワーク）

のコラボレーション（合作、共演）の可能性を探りながら、新たな「水環境マップ2.0」を展開できないだろうか？

### 2024年度河川基金へ応募、採択

（NPO法人パートナーシップオフィス）

- 上記関係者に相談役として全国水環境交流会を加えた意見交換会を設置、3回開催

**「水環境マップ2.0」の観点**
- 健全な水環境の定義(防災含む)
- 人が水辺に触れ、見つめる機会を増やし、本来あるべき川（流域）の姿を考える
- 活動結果のアウトプットの工夫

**モデル案作成の基本的考え方**
- 地域河川（流域）を対象に作成していく際のガイドライン
- 流域毎に「健全な水環境」を探る運動でもあること
- 多様な流域関係者と管理者等が協働で作成して いくこと

| 川や水辺の名称 | 最上川など | 活動や事業の名称または応募に当たってのテーマ |
|---|---|---|
| 所在地 | 山形県酒田市 | 「水環境マップ2.0」の展開を通じた流域環境見守り体制の構築 |
| 応募者名(ふりがな)<br>所属団体名 | NPO法人パートナーシップオフィス<br>＆　全国川ごみネットワーク | エントリー　No. 204 |